

第11回宮崎チャレンジマッチ「ホッケー競技」大会

第11回宮崎チャレンジマッチ「ホッケー競技」大会がの主催で7月4日（日）、ひなた木の花ドームにて無観客で開催した。

本来ならば昨年度（令和2年度）奈良県天理高等学校を招待して実施される予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、本年度に延期されることとなった。

今年度に入り、実施に向けての準備行動と常に「コロナ禍」であるために中止や延期の判断を行う可能性を含めて両輪で対応を行った。

全国的な緊急事態宣言下やまん延防止等緊急措置下で先行の選択肢が限られる中、4月末に島根県立横田高等学校が今事業の要請を受けて頂き、ようやく開催に向けて本格的に動き出した。今回招待した島根県立横田高等学校は全国大会優勝を男子は16回、女子は5回と全国屈指の強豪校を迎えることができた。

【女子戦評】

横田高校（以下横田）はエースの④石原実樹を中心に⑥吉田、⑤二澤、⑮景山がショートパスで組み立て、特に右からの縦に速い攻撃を意識した1-1-3-3-3の布陣。対する宮崎県選抜（以下宮崎）は②吉田を中心とした粘り強い守備と⑧野中、⑱澤田を中心としたショートパスでのビルドアップを意識した同じく1-1-3-3-3の布陣。横田高校のセンターパスで試合開始。

第1Qはシンプルな長いボールでチャンスを作る横田と、細かいパスをつなぎ攻撃を組み立てる宮崎の一進一退の攻防となった。攻守が目まぐるしく変わる中、7分、宮崎陣でのリスタートから横田が右サイド⑮景山に大きく展開。グラウンダーのクロスを宮崎GK①井上がはじいたこぼれ球を④石原が押し込み横田先制。

第2Q一進一退。お互いチャンスを作るがものにできず、1-0の横田リードで第2Q終了。

第3Qに入っても激しい攻防が繰り返される。横田の縦に速い攻めに対し、宮崎は粘り強い守備でしのぐ。宮崎も丁寧なショートパスで崩しにかかるが横田は人数をかけて対応、決定的チャンスを作らせない。5分、宮崎のパスミスにカットした横田がショートカウンター。⑮景山が抜け出し、宮崎①井上の脇を抜くシュートが決まり2-0。続く6分にも同じく宮崎のパスミスにカットしサークル手前で縦パスを受けた④石原がリバースシュートを叩き込み3-0。対する宮崎も9分、⑧野中が左サイドから切れ込み⑨天野→⑩松浦→⑦黒木とつないでゴール前に入れたクロスに⑱澤田がタッチシュートするが横田①内田がナイスセーブで得点を与えない。その後PCから④石原が1点を加えた横田が4-0とする。

第4Qは追いかける宮崎が圧倒。幾度となく横田陣内に攻め込むがあと一歩及ばず。結局横田が4-0で宮崎県選抜に勝利した。宮崎も善戦したが、経験者を揃えた横田が技術、スピード、経験で上回り一日の長がスコアに現れた試合であった。

強豪横田を招いての今回のチャレンジカップ。0-4とスコアは完敗であったものの、FWからの激しいプレスにより相手ボールを奪うことができた場面や、パスワークから相手陣地へ攻め込めたこと等、練習成果もしっかりと発揮できたゲームであった。技術力で完全に上回る横田に対して、いかにして戦うか。ロースコアで納める布陣を組み、カウンターで1点を狙う展開をするべきなのか悩んだが、これまで練習を重ねてきた細かなパスワークがどれほど通用するのかを思い切って試すことにした。運動量で上回り、人数をかけて攻撃を仕掛ける。このプレーに徹した展開をする中で、幾度となく得点を挙げるができそうなチャンスメイクをすることができた。得点まであと一歩であったが課題はたくさんある。国体予選までに一つ一つ課題を克服していき、最終の状況判断をし、泥臭く、1点を重ねていけるチームにしていきたい。

コロナ禍の中、このような貴重な体験をさせていただき、ご尽力いただいた皆様に、深く感謝している。

(女子試合の様子)



【男子講評】

試合は宮崎選抜（以下宮崎）のセンターパスで開始された。

今回招待した男子横田高校（以下横田）はU-18 日本代表候補選手が6名要する経験豊富な選手達に本県選抜選手がいかに守備をできるかが見所であった。

開始早々、横田の個人技が冴え渡り、幾度となく宮崎自陣に攻め入ったが、④小原や⑱中山を中心に低い姿勢でパスカットやシュートを打つ前にアタックを仕掛け、また、GK 岡田が好セーブを幾度となく見せ、前半は0対0で終了。

後半も同様に攻撃の手を緩めない横田の攻撃に必死の守備で対抗する宮崎。

第3Q-11分ペナルティ・コーナー（PC）を与え、相手のパス回しにマークが外れ、横田⑫長谷川が冷静に決め失点し、均衡が破れた。

第4Q-5分横田⑧羽松崎がサークルトップから素早いシュートを放ち2点目。同-8分には守備の乱れから3点目を失う。宮崎も少ないチャンスからPCを得たものの得点は至らず、結果は0対3で横田高校の勝利に終わった。

(男子試合の様子)



試合は男女とも横田高校が実力どおり全国レベルのプレーを経験でき、また、本県選抜選手はそのプレーのレベルの差を感じながらも手応えを感じることができ、大変素晴らしい事業となった。現在の制限がある中で、この時期に強豪校と対戦することができ、貴重な経験となった。この機会を活かし、是非とも九州ブロックを突破し、本国体出場を果たしたい。また、この事業に参加した選手達、会場で観戦したジュニアの選手及び残念ながら会場での観戦はできなかったがインターネット中継で観戦したターゲットエージの子どもたちが6年後の「日本のひなた宮崎国スポ・障スポ」の少年・成年種別の主力選手として活躍してくれることも期待したい。

試合での経験は選手達には貴重な体験になったのはもちろんのこと、式典進行、試合中のアナウンスそしてインターネットライブ中継等通常の大会にはない会場の雰囲気を作って頂いたことに感謝したい。さらにこの機会に県民の皆様にはホッケー競技を少しでも知っていただき、関心をもっていただける機会になったことにも感謝したい。

最後にこの事業を実施するにあたり、実行委員会発足時からご支援頂いた MRT 宮崎放送、UMK テレビ宮崎、宮崎県教育委員会そして公益財団法人宮崎県スポーツ協会にお礼と感謝を申し上げます。

また、大会をご支援いただいた協賛各社等の皆様、多くの県民の皆様には心から感謝申し上げます。

大会の結果

男子の部 優勝 横田高等学校（島根県） 準優勝 宮崎選抜

女子の部 優勝 横田高等学校（島根県） 準優勝 宮崎選抜

(協賛関係)

(開始式の様子)



(記念品及び協賛品贈呈)

